



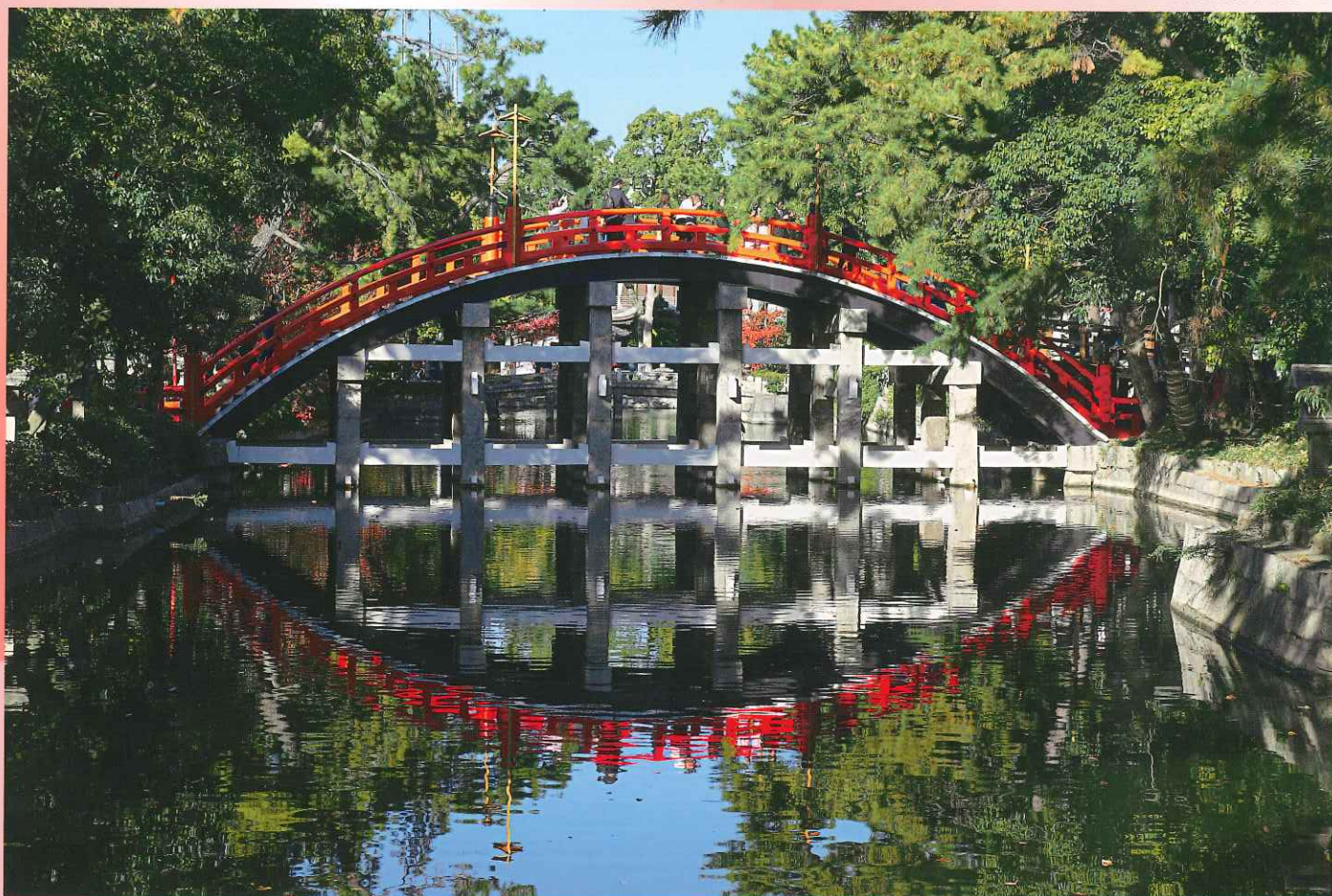
大阪市立大学 同窓会報

有恒

yuko

2021 january vol.21

●有恒会(商・経・法・文・創 同窓会) ●理学部同窓会 ●工学部同窓会 ●医学部同窓会 ●生活科学部同窓会 ●よつば会(看護系同窓会)



住吉大社「太鼓橋」

「大阪公立大学」開学特集

初代学長予定者インタビュー

辰巳砂 昌弘氏

「新大学への期待」メッセージ

吉村洋文 大阪府知事

松井一郎 大阪市長

西澤良記・公立大学法人大阪 理事長

経済3団体(会長・会頭・代表幹事)

Osaka City University Alumni

ざっくばらん



写真映像作家にとどまらず、 起業コンサルジュまで

—東京とNY拠点に、活動範囲はますます多彩に、多岐に—

写真映像作家 **松井みさき**さん (経平7卒)

今号の「ざっくばらん」は、東京とニューヨーク(NY)を拠点に、写真映像作家としての才能を果敢に発揮されている松井みさきさん。その活躍ぶり取材しました。市大卒業後、日系・外資系広告会社でのマーケティングプランナー勤務が社会人としての起点でした。日本で趣味として写真をされていたが、写真家を目指して2008年に渡米。活動は写真映像作家の域にとどまらず、多彩な経歴を経て今や起業コンサルジュまでされています。

これからも新たな分野での飛躍が予感できるほどのエネルギーが伝わってきました。今回は、様々な活動の中でも比較的新しい、2019年NYで出版された英語ガイドブック写真集と2020年夏からの起業コンサルジュを主とするインタビューとなりました。

■なぜニューヨーク(NY)?

当時の日本の写真コンテストは年齢制限があるものが多く、写真家を目指したのが遅かった私には不利であり、また、美大出身でもなく、東京に写真家のつてもなく、日本で新しいキャリアに挑戦する難しさ、限界を思い知りました。そこで、逆説的な発想で、NYで結果を出して自分を逆輸入させようと思い立ちました。

なぜNYかという、自身のアイデンティティと行動力で勝負できる街だと直感で思えたからです。NYには様々な国や人種、バックグラウンドの人がいて、日本では不利な条件を抱えた自分でもフラットな状態でスタートできる最適地だと思いました。実際、そのときの判断は今でも間違っていなかったと思っています。

■経歴が多彩で、そして活動領域が創造的です。

経験を組み合わせるのではなく、掛け合わせる。足し算でなく、掛け算です。

広告会社でマーケティングプランナー時代に、ブランディングや、調査設計から報告までをしていました。写真映像作家となり、アーティスト・ステイトメントやコンセプト、作品の一貫性について常に考え、意識しています。また、ドキュメンタリー映画を撮るときに、監督・撮影だけでなく、自らインタビュー、ナレーションも行い、昔のスキルを活かしてい

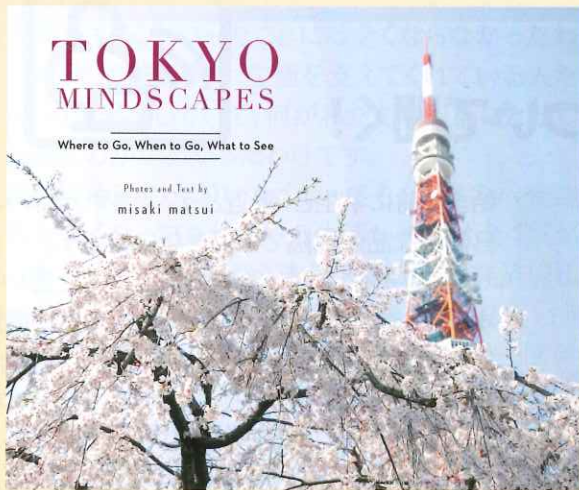
ます。作品は、アメリカ、ロンドンでの国際写真コンペ、ロンドン、モナコ、東京などでの国際映画祭等に入選しています。

■英語ガイドブック写真集「Tokyo Mindscapes (東京心風景)」をNYから出版されましたね。

私は、日本生まれの日本育ちで、大人になってからNYで生活したので、日本人の視点と外国から見た国際的な視点の両方を持つことができると考えています。NYの出版社MUSEYON社からお声がけいただき、日米両方の人が見ても自然で違和感がなく、美しいと思える写真集のような英語ガイドブックにしたいと思い、2019年に出版させていただきました。



ニューヨーク コニーアイランドにて (photo by Akira Okimoto)



英語ガイドブック写真集『Tokyo Mindscapes』

今回の写真集は、淡い色で構成しようと決めていました。外国の写真家が撮る日本の風景は、色が濃いめに強調されています。日本観光のガイドブックが置いてあるコーナーも文字が赤いのが多く、派手めな印象です。しかし、実際の現代の東京の風景は、ライトグレーのビルが建ち並び、淡い色で構成されています。街でよく見かける桜も濃いピンクではなく淡いピンクですよ。

また、インバウンドのリピーター向けにマイナーな観光スポットも取り上げ、日本人の方にも興味深く読んでもらえるように編集したつもりです。コロナの影響で、旅行することが叶わない状況であっても、読み物としても楽しんでいただけるようになっているので、こういう時だからこそ手にとってほしいですね。

■起業コンシェルジュとしての、新たな活動も始められたのですね。

2020年8月より、立川の東京創業ステーション内にある、STARTUP HUB TOKYO TAMA(スタハTAMA)にて、起業コンシェルジュを始めさせていただいており、起業したい方のご相談にのり、アイデアや理念を具体化するお手伝いをしています。

私は写真映像作家ですが、広告会社で企業や商品のプランニングを担当していたこともあり、戦略思考とイメージアウトプットの両視点からアドバイスさせていただければと思います。写真映像作家と起業コンシェルジュでは、共通点がなさそうに見えるかもしれませんが、例えば、まず自分がどんな人間なのかを内省し、セルフブランディングしたうえで、そのイメージを的確にプレゼンテーションするのがポートレート(プロフィール写真)だったりします。

プレゼンテーションについては、日本人は信念や情熱

はあるのに、シャイでその思いをうまく伝えられないことが往々にしてあります。欧米人のパフォーマンス力はすばらしいですが、時に内容が浅いこともあったりします。でも、引き込まれるものがあるのです。その差は、単純に幼少期からの「場数」によるものです。そのような状況には前々から歯痒さを感じていたので、セルフプレゼンテーションでもお手伝いをしていければと思います。

■個人としての強みは何ですか。

『no moment without hope(希望のない瞬間はない)』。これが私のすべての作品・活動を通しての共通のテーマです。渡米してからずっと、人々に希望を思い起こさせることを使命としています。

また、私は「出逢いはご縁である」という思いが常にあり、いつも「人」からインスピレーションを得て創作しています。今後もそれを大切にしていきたいです。

また、私は会社員から写真映像作家という道を辿りましたが、前述の掛け合わせの発想により、人生で回り道と思うようなことも、いつか点と点がつながり、線となる時がくるといつも信じています。

インタビュー：奥山正昭(経昭44卒)

文責：加藤菜々子(経令2卒)



STARTUP HUB TOKYO TAMAにて起業コンシェルジュ